

学生の確保の見通しを記載した書類

－目次－

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - ①学生の確保の見通し . . . P2
 - ②学生確保に向けた具体的な取組状況 . . . P4
 - (2) 人材需要の動向等社会の要請
 - ①人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的（概要） . . . P5
 - ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの . . . P5
- であることの客観的な根拠

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

国際交流学部全体の約8割以上が外国人留学生という状況や、近年、観光系の学部の新設が後を絶たないのに対し、文学系の国際交流学部はほとんど開設されていないという学部新設の状況や、今後の日本の発展にとって観光立国の方向性は確固たるものと考えたときに、国際交流学部を募集停止し、減じた入学定員及び3年次編入学定員を観光学部に振り替えるという収容定員変更とした。(表1参照)。

令和3年度の入学者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響下にあったものの、観光学部、国際交流学部ともに募集定員を充足することができている。

新型コロナウイルスの流行以前にあたる過去3年間(平成30年～令和2年)の本学入試状況に基づき、令和5年度以降の学生募集についての考え方や、定員充足の見込みについて以下の通り説明する。(表2参照)

表1 入学定員及び編入学定員の見直し (単位:人)

学部	入学定員			3年次編入学定員			収容定員
	変更前	変更後	増減	変更前	変更後	増減	
観光学部	130	190	60	15	20	5	800
国際交流学部	60	0	△60	5	0	△5	0
合計	190	190	0	20	20	0	800

※令和5年度より、国際交流学部募集停止

《観光学部の定員確保の状況》

観光学部における直近5カ年の定員超過率は平均で120%となっている。また、観光学部の志願者数では、コロナ禍の影響による外国人留学生の志願者数減少で全体の志願者数は令和3年度が182名、令和4年度は181名と特殊要因により減少したものの、令和3年度以前の志願者数は平成30年度237名、平成31年度378名、令和2年度252名と3カ年の平均出願者数は289名であり、変更後の入学定員である190名に対して志願者は大幅に確保されている。(表2参照)

要因は以下の通りである。

- 1) 関西国際空港に近接した立地状況や、南大阪・南紀エリアには和歌山大学の観光学部が隣接していることも踏まえ、地元のみならず中四国・九州などの幅広いエリアから学生が集まっている。総合型選抜や学校推薦型選抜といった年内入試で出願する学生が多い傾向にあり、第一希望かつ学習意欲の高い学生が入学している。

- 2) 中国・ベトナム・韓国を中心とするアジア圏域からの進学希望が多く、志願者数のおおよそ6割を外国人留学生が占めている。外国人留学生に対する教育水準の維持、教職員のサポート体制が評価されている結果もあり、西日本地区更には関東圏の日本語教育機関からの支持も厚く、安定的な受験者確保に結びついている。

《観光学部 定員数変更における定員充足の見込み》

- 1) 新型コロナウイルスの影響を受けた令和3年度及び令和4年度は、平成30年度から令和2年度に比べ志願者数および入学者数が減少する結果となっている。

(表2参照)

減少の最大の要因としては、コロナ禍の影響で日本語学校等に在籍する外国人留学生が大幅に減少し、その影響で外国人留学生の志願者数および入学者数が減少したもので、一時的且つ特殊要因によるものである。

従って、令和5年度以降の学生募集は長期的かつ安定的な状況であると判断した。

- 2) 募集停止する国際交流学部の留学生は、定員の関係で観光学部に入学することが困難な志願者が多く在籍しており、観光学部の定員変更により、そのような留学生の受入が可能となる。(表2参照)

- 3) 本学は、日本語別科を設置しており、学部への内部進学を積極的に進めている、直近4年間においては26名から最大52名が内部進学をしている。国際交流学部が募集停止となった場合、観光学部への内部進学となり、入学定員確保に大きく寄与することになる(表3参照)。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

表2 観光学部入学者等の推移

(単位：人)

学部	入学定員	区分	H30年度	H31年度	R2年度	H30～R2平均	R3年度	R4年度
観光学部	130	志願者数	237	378	252	289	182	181
		(内留学生)	164	190	180	178	125	125
		受験者数	230	367	244	280	174	162
		合格者数	197	178	186	187	147	152
		入学者数	168	168	164	167	137	142
		入学定員超過率	129%	129%	126%	128%	105%	109%
国際交流学部	60	志願者数	107	126	99	111	71	79
		(内留学生)	78	97	76	84	59	66
		入学者数	75	76	70	73	64	62
大学全体	190	志願者数	344	504	351	400	253	260
		(内留学生)	242	287	256	262	184	191
		入学者数	243	244	234	240	201	204

表3 日本語別科からの内部進学

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
観光学部	4	1	20	7	5
国際交流学部	22	33	32	25	9
合計	26	34	52	32	14

②学生募集の確保に向けた具体的な取組状況

・募集広報ワーキングチームの結成

新型コロナウイルスや旧理事会による不祥事の風評的影響を踏まえ、令和3年度から募集広報対策ワーキンググループを結成し教職協働で学生募集の確保に向け取り組んでいる。学生募集の確保に向けた具体的な取組状況は、下記の通りである。

1) 高校訪問・渉外活動の強化

戦略的な渉外活動を展開するため、対象となる重要校の見直しを行った。入試広報課職員だけの渉外活動も見直し、全学的に渉外業務に取り組むため、高校に向けての「出張講義」を教員に再度依頼し、関西圏内の高等学校で体験授業を実施している。

また、重要校に位置付けた高等学校については、各校長にアポイントを依頼し大学再建に関する説明を懇切丁寧に行い、信頼回復に向けた取り組みを行っている。

2) 留学生募集の強化

新型コロナウイルスの影響で留学生募集が厳しい状況となっているが、学校訪問や独自のオンライン説明会の実施などにより、日本語学校との関係をさらに強化する。

ガイダンス、資料請求、オンライン説明会、オープンキャンパスなどで接触した留学生に対して、個別にフォローし出願につなげる。

今まで取り組んでいなかった中国や韓国からの直接入学を強化する。

3) 情報発信・ホームページの改善

受験生にとって有益な情報提供をおこなうため、情報発信担当の教員が主体となり、ホームページの改善作業を進めている。活躍する学生の姿や学びの内容について、SNSやダイレクトメールを駆使した精力的な情報発信に努めている。

4) オンライン個別相談会の拡充

オンラインでの個別相談会を拡充し、学生との相談が可能な「オンライン学生相談」も同時に開設している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

- ・現代社会の人間形成上の諸問題を深く認識し、観光と人生を楽しむ力を備えた世界市民の発展を支援すると共に、現代を生きぬく力を備えた観光業・サービス事業等に携わる職業人の養成を目指す。
- ・観光がグローバル化した現代を読み解く新しい観光学を確立し、これに基づいて観光事象の過去・現在を解明し、自由で持続可能な共生社会実現への道筋を展望する。
- ・地域・社会の方々の参画、観光事業等の実業界との連携を得て、地域に愛され世界に開かれた大学として、地域・社会への貢献を続ける。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

過去5年間の就職状況、観光関連業界への就職状況、所在地別就職状況は以下の通りとなっている。(表4.5.6)

表4 過去5年間の大学就職状況(%)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
大学全体	85.1%	96.5%	99.2%	93.8%	70.1%
観光学部	85.1%	97.2%	99.2%	94.6%	76.9%

表5 過去5年間の観光関連業界への就職状況(%)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
観光関連業界	38%	39%	35%	41%	28%

表6 過去5年間の所在地別就職状況(人)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
大学全体	83	110	128	90	107
近畿地区	48	70	77	74	87